

My stories in St.Paul

2023年度入学 グローバルコース S.S



進学先：鳥取大学 農学部生命環境農学科 (推薦型選抜 公募)



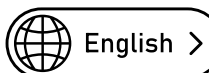
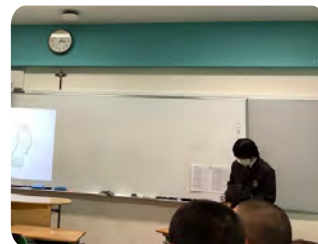
STEP 1 砂漠の緑化への興味

地球規模の環境課題に、科学の力で挑みたい。その情熱の先にあるのは、乾燥地研究の総本山である鳥取大学への進学でした。「絶対に鳥取大で学ぶ」という強い意志は、私の学習のすべての原動力となりました。単なる憧れではなく、未来の自分をその研究室に置くために、逆算して今何をすべきかを常に問い続けてきました。

STEP 2 数学へのプライド 偏差値70



志を実現するための武器として、私は数学を徹底的に磨き上げました。猛勉強の末に偏差値は70に到達。さらにクラスメイトに勉強を教えるための勉強会を自ら企画・開催し、仲間の「わからない」に徹底的に寄り添いました。教えることで自分の理解もより深化したと思います。



STEP 3 挫折・挫折・挫折



鳥取大学「国際乾燥地コース」を目指し、満を持して総合型選抜と推薦型1期の選抜に挑みました。しかし、そこで待っていたのは厳しい現実でした。面接では砂漠緑化という国際的な舞台に立つための「英語力」の不足を鋭く突かれ、完敗。その後、共通テストでも思うように点数が振るわず、目の前が真っ暗になりました。「もう、浪人するしかないのか」。積み上げてきた数学への自信も、目標への熱意も、結果に結びつかない苦しさで叫びだしそうでした。というか叫んでいました。

STEP 4 執念で勝ち取った合格

共通テスト後の絶望的な状況から、気持ちが切り替わったのは1週間後。すでに出願していた推薦型2期の選抜は待ってくれません。試験形式は共通テストの点数に加え、面接と小論文。英語力という課題を克服すべく、そして自分の志がいかに本物であるかを言語化するために、試験直前の1分1秒まで対策をやり抜きました。三度目の挑戦。小論文では地域貢献の意欲を伝えるという自分の中での留意事項に集中して取り組み、面接の場では、これまでの挫折さえも自分の糧として語り、逃げずに挑み続ける姿勢をぶつけました。

結果、合格。

執念が実を結んだ瞬間でした。困難な研究課題に直面しても、決して背を向けずに完遂する粘り強さを手に入れることができたと思います。

